

La Vida

二十年目の邂逅。時を経て答えは重なり、
一棹の水屋筆筒から、終の棲家へ。
ふたたび紡がれる「きずな」のものがたり。

出合いは二十年前。私たちが、家具II
木工の原点を見つめるために仕入れた、
一棹の水屋筆筒。人、木、歴史、智慧。
この国の「きずな」を託したその一棹を、
生涯使う「生活のうつわ」として引き受
けてくださった一人のお客様。

二十年の間に、私たちの思いは深ま
り、広がりました。食へること、眠るこ
と、くつろぐこと。生活にかかわる物事
のそばにある「家具」のことを考え続け
た果てに、そこにつながる「暮らし」と
「住まい」も大切にしたい、と思うようにな
ったとき、その答えが、住まい創りへの
意志となるのは自然なことでした。

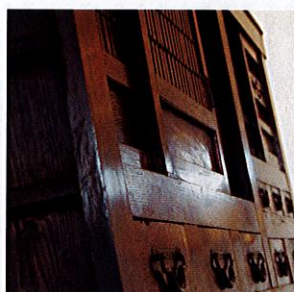
試みの機会に恵まれて十数棟を形にし
た頃。あの水屋筆筒は、それを引き受け
た人とラ・ビダの思いを、空間を超え
てつなぎ続け、二十年目、ふたたび新し
いものがたりを紡ぎはじめました。

時を経て互いが得た、住まうことへの
解答。飾らず、心地よく、丁度よく、後
世に継げる、家——「いのちのうつわ」。
去る日、水屋筆筒に託した「きずな」が
今、終の棲家へと形をかえて、託し託さ
れながら、つながり続けています。



終つひの棲家すみか (序)

つむがれる、ものがたり。
そして、つながってゆく、
この国の、人、木、きずな。



ものがたりの続きは、新しくなったWebサイトで。 <http://www.lavida.co.jp>

Webサイトをリニューアルしました。「終の棲家」Y様邸の
完成までの過程も随時ご紹介します。ぜひご覧ください。